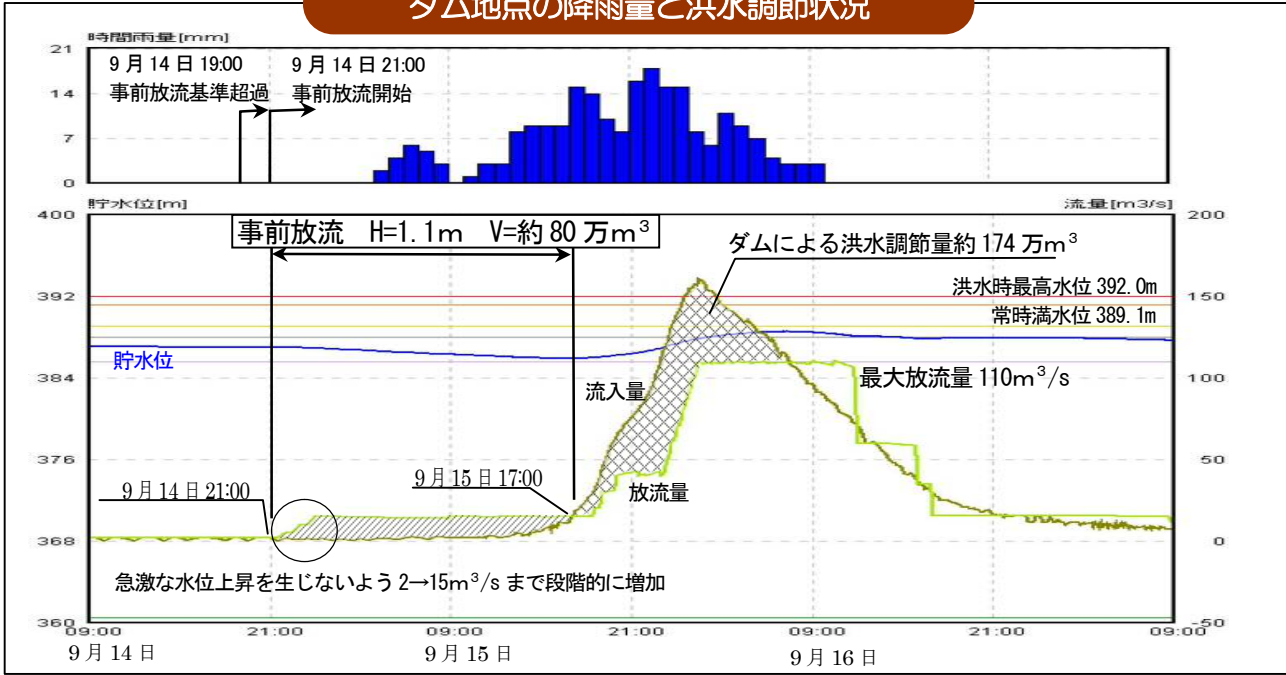


生野ダムの洪水調節効果

— 9月15～16日の台風第18号豪雨に備えてダムの事前放流を初めて行いました —

ダムの計画を超える降雨が予測されたため、あらかじめ利水容量を放流し、貯水位を低下させて洪水に備える「事前放流」を初めて実施しました。
 これにより、あらかじめ貯水位を 1.1m 低下させて洪水調節容量を約 80 万 m^3 増加させた上で、ダムに約 170 万 m^3 を一時的に貯留して洪水調節を行い、下流河川の水位を低減させました。

ダム地点の降雨量と洪水調節状況



事前放流による下流河川の水位低減効果

- ① 事前放流により貯水位を 1.1m (387.01m→385.91m) 低下させ、洪水調節容量を約 80 万 m^3 増加 (事前放流していなかった場合、最高貯水位は 1.0m 上昇し 389.56m に達したと想定される)
- ② 約 170 万 m^3 の洪水をダムに一時的に貯留することにより、寺前地点で水位を約 15cm 低減し (2.71m→2.56m)、はん濫注意水位 (2.70m) を回避

水位観測所	水位の状況		摘要
	ダムがなかった場合の想定水位	実績水位 (水位低減効果)	
寺前	2.71m	2.56m (15 c m 低下)	はん濫注意水位 (2.70m) を回避
福崎	4.92m	4.81m (11 c m 低下)	
砥堀	5.27m	5.21m (6 c m 低下)	

(参考) 事前放流の経緯

- 9月14日 (土) 19:00 事前放流基準 (225mm/24時間) の超過を確認 [275.4mm/24時間]
- 19:30 姫路土木事務所に生野ダム事前放流に伴う連絡員待機を発令
- 21:00 事前放流開始 (放流量を 2 m^3/s から 15 m^3/s に増量)
- 22:00 放流量を 5 m^3/s に増量
- 23:00 放流量を 10 m^3/s に増量
- 24:00 放流量を 15 m^3/s に増量
- 下流に急激な水位上昇が生じないよう段階的に増量
- 9月15日 (日) 2:00 最大予測雨量を予測 [347.6mm/24時間]
- 2:40 事前放流基準を下回る [212.3mm/24時間]
- ※2:40～17:00 は 15 m^3/s の事前放流を継続し、貯水位を低下